

地域研修レポート

名古屋第一赤十字病院 R2

私は地域医療研修として新城市民病院にて4週間研修をさせていただきました。指導医の先生方をはじめ、コメディカルや事務の皆様を支えられ、充実した研修期間を過ごすことができたと感じております。

昨今の情勢から、私の研修期間は院外での研修が大幅に制限されており、一般内科外来（初診・再来）が研修の中心となりました。一般内科外来では初診患者さんについて指導医の先生と相談しつつ診療にあたり、必要に応じて数週間後に再診していただいて経過を見ます。これまでの研修でも救急外来にて初診患者さんに対応する機会はたくさんありました。しかし救急外来では緊急性の判断とその対応が中心であり、後日のフォローは専門科に引き継がれることがほとんどでした。したがって初診時の対応だけでなく、診断をある程度までしっかりつけてその後の経過を予想しつつ後日の外来フォローを行うという経験は今回の新城市民病院での研修で初めて本格的に経験することができ、大変勉強になりました。また外来症例の振り返り検討会も毎日行われ、自分が担当した症例に指導医の先生方からアドバイスを頂ける機会があるのもよかったと思います。

外来で担当した患者さんが入院した場合にはそのまま担当医として受け持たせていただく機会もありました。入院の契機となった病態の治療はもちろんですが、それと並行して認知機能や生活能力、家庭環境など患者さんの生活・社会背景を考慮しつつ退院の調整を進めることとなります。当然医師のみではこうした調整は不可能であり、MSWの方をはじめ多職種の方とご家族と相談しつつ退院調整を進めていきます。普段の研修では入院患者さんを受け持つことがあっても退院調整の現場まではなかなか経験できていなかったため、今回の研修でこうした調整の一端に触れることができ、患者さんにとって最善の医療を提供するには多職種での連携が不可欠であると改めて実感できました。

研修期間中に2回同行した作手診療所での診療は、数少ない院外研修の機会でしたが大変印象に残っています。高齢化が進み、医療へのアクセスが難しい地域で限られた医療資源をもとに診療を行ういわゆる「へき地医療」の現場を経験したことで、普段自分が研修する都市部の病院での診療とはまた異なる医療の一面を垣間見ることができました。中でも印象深かったのが、診療所のスタッフの一人が何気なく語ってくれた「この患者さんはみんな家族みたいなものだから」という言葉です。限られた医療資源の中でコミュニティ全体の医療を支えていくスタッフの信念を感じると同時に、病気ではなく人を診る医療を自分はできているかと自問する機会となりました。

末尾になりましたが、丁寧に指導いただいた先生方、至らぬ点多々ある中で診療をサポートしていただいたコメディカルの皆様、研修生活を助けていただいた事務の皆様をはじめ、お世話になった方々にお改めてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。